

愛知県稲沢市

■調査項目

ご当地キャラクターを活用したまちづくり事業について

・調査対応者

経済環境部 商工観光課 課長 澤田 雄一様

経済環境部 商工観光課 観光・労働グループ 主幹 久留宮 庸和様

経済環境部 商工観光課 主任 戸田 一宏様

・調査期日

平成29年1月23日(月) 午後13時30分～午後15時00分

・稲沢市の概要

人口：136,969人

世帯数：51,245世帯

・調査目的

本市の新キャラクター事業に生かすため

・調査内容(経済環境部商工観光課からの説明)

◆事業概要

1、事業名

いなッピー活動事業

2、担当

経済環境部 商工観光課 観光・労働グループ

3、開始年度

平成19年

4、法的根拠

稲沢市マスコットキャラクター使用取扱要領

5、事業の目的

平成20年に市制50周年を迎えるにあたり、記念事業の啓発・宣伝や、稲沢市をより多くの方にPRすることを発端として「いなッピー」が誕生し、以降市のPRを目的として活動している。

6、事業費

平成28年度予算額 3,318千円

平成27年度決算額 3,157千円

◆事業内容

現在、お祭り等の各種イベントに登場し、稲沢市をPRしている。頭は稲沢市特産の植木とアシタバ、体全体はイチョウ、はちまきとフンドシは国府宮はだか祭をイメージしており、市の代表的な要素を持っている。困っている人はほっとけない主義で、子どもからお年寄りまで皆から愛情を持って接している。

また、いなッピーは元気な男の子で、ほかのキャラクターとも仲良しになり、今までゆるキャラ界初のダンスチーム「ちーむ ふわふわ隊」のメンバーになったり、平成23年度には滋賀ふるさと観光大使「西川貴教さん」のキャラクターであるタボくん達と「タボくんバンド」を結成し、県内外での数々のイベントに出演し、多くのファンに支えられながら、稲沢市のPRに努めている。

なお、いなッピーのデザインを使用してもらうため、使用承認事業を行っているが、広く活用してもらうため、使用料は無料に対応している。平成25年度には、いなッピーの図と呼称について商標登録を行い、いなッピーを稲沢市が永続的に使用できる体制を整えた。

◆着ぐるみによる活動

1、市職員による着ぐるみ活動事業

平成26年度 97日

平成27年度 91日

2、団体への貸出事業

平成26年度 74件

平成27年度 66件

・いなッピー着ぐるみ貸出承認申込書の提出が必要 →貸出承認書の送付
※以前は市HPに貸出要領や申請書様式を掲載していたが、イメージ低下に繋がる恐れがある理由から、現在は「出演についてはお問い合わせください」と記載し、貸出の可能な場合は、その都度対応している。

→衣装じゃなく、生きているキャラクター。ファンの人達に展開図など見せたくない。

3、着ぐるみ製作

平成19年度 1体目

平成20年度 2体目（1体目より小型化）

平成22年度 3体目（手を握れるようにした）

平成24年度 4体目（目の開閉ができるもので、ご当地キャラクター初）

平成26年度 5体目（目の開閉ができるもの）

6体目（貸出専用）

平成28年度 7体目（目の開閉ができるもの）

8体目（貸出専用）※製作中

◆デザイン使用承認事業

1、申請書の提出（様式は市HPからダウンロード可）

- ・稲沢市マスコットキャラクター「いなッピー」使用承認申請書
- ・稲沢市マスコットキャラクター「いなッピー」使用期間更新承認申請書
- ・稲沢市マスコットキャラクター「いなッピー」使用変更承認申請書

2、デザイン使用承認件数

平成26年度	93件
平成27年度	60件

3、申請時の注意事項

- ・1回の申請で3年間まで有効（上記承認件数が減少した要因でもある）
- ・「©稲沢市 いなッピー」または「©Inazawa City INAPPY」の標記を付すこと。

【質疑応答】

Q、8体のイナッピー、初期からのサイズが変わっている。希望のものが借りられるか。

A、貸出用の6体目が原則である。市内2-3体同時にできる事はない。東京に出ているときは市内で出演することができる。

Q、デザイン商品、申請出せばどの企業でも商品化できるのか。

A、観光協会がイナッピーグッズを販売。地元の文具やからメモちょう作りたいという要請があれば、承認出せばどこでも誰でも出せる。広めて頂く事が優先。市外の業者が作ることもある。それも無料。

Q、商標は稲沢市、大学はデザイン使用の権利だけか。

A、基本形をくずしてはいけない。著作権は市。著作人格権、著作者に必ずある権利。デザイン者の意に沿っていないようにならないようにしている。

Q、基本デザインには人格権があつて、その他の変更は大学の許可がいる。チェックはどうしているのか。

A、大学のほうに人格権を預けているので、判断は大学。変な使い方さえされないよう市で判断もする。

Q、ゆるキャライベントはどのようなものがあるか。

A、世界キャラクターサミット、羽生が一番大きい。（ギネス記録あり）。東の羽生と西の彦根とも言われている。日本の「ゆるキャラ」の商標を持って

いる団体とそうでない団体。ご当地キャラクター（＝世界キャラクターサミット）という名前と違うニュアンス。

Q、ダンスキャラクターは多いか。

A、多くはないとはいえ、複数そういったキャラクターがいる。

Q、ことの発端は何か。

A、市政50周年事業として企画政策課、周年イベント実行部隊があった。その中であつた。当初、現在の観光課でなく企画政策課が持っていた。

Q、経済効果はどれくらいあり、ヒット商品は何か。

A、経済効果はわからない。キャラクター、かばんにつけるグッズが売れる。

Q、市が製作したノベルティグッズは何か。

A、アメとシールがノベルティグッズである。

Q、予算はどれくらいか。

A、340万の中にPRノベルティ子どもにはシールとアメ（13円）が含まれている。

【呉市での展開の可能性】

本年度、本市でも新キャラクターを作成する予定である。その今後の展開に関して、コンセプト軸の確立、露出方法、申請の手続き方法、ノベルティグッズの販売について稲沢市の例を参考にできるのではないかと考える。多くの市民に愛される事はベースであるが、その愛着を根付かせるためにはどのようなコンセプトキャラクターなのか、沢山の人に知ってもらうためにはどのようなキャラクター自身のPRをしていくのか、そして発展していった場合、どのようにそれを拡散させるのか、その流れはどこも共通である。本市においてどのようなキャラクターが誕生するか現時点でわからないが、ゆるキャラ、ご当地キャラの市場は飽和状態であるため、インパクトのあるキャラクターが求められる。稲沢市のように、地元の特徴を盛り込んだキャラクターが必要であると考えことから、呉市においては特徴である、ものづくりのまち呉、自然豊かな呉、絆が深い呉を利用してキャラクターに反映したい、そして、PR方法でどう表現していくか今後期待する。

■特別交付税増額要望について

・要望先

地元選出国會議員	衆議院議員	寺田 稔
	衆議院議員	中川 俊直
	衆議院議員	斉藤 鉄夫
	参議院議員	溝手 顕正
	参議院議員	宮澤 洋一
	参議院議員	森本 真治
	参議院議員	柳田 稔
関係省庁	財務省 主計局長	福田 淳一
	総務省 自治財政局長	黒田 武一郎

・陳情日

平成29年1月24日（火）午後13時～午後16時

・陳情目的

特別交付税の増額を要望するため

・陳情内容

特別交付税の配分に当たって、2,150,000千円の確保依頼

【詳細】

- 1、災害復旧事業に要する経費（449,524千円）
- 2、地域活性化対策に要する経費（1,871,005千円）
- 3、子育て・子育てしやすい環境づくりに要する経費
（1,351,049千円）
- 4、障害者福祉対策に要する経費（822,273千円）
- 5、高齢者対策に要する経費（463,358千円）
- 6、行財政改革に要する経費（962,618千円）
- 7、公営事業会計等への繰出しに要する経費（1,472,573千円）
- 8、中小企業振興対策に要する経費（670,155千円）
- 9、農林水産業振興対策に要する経費（325,743千円）
- 10、安全・安心なまちづくりに要する経費（390,459千円）

東京都墨田区 すみだ北斎美術館

■調査項目

すみだ北斎美術館（施設見学）
（クラウドファンディングの活用について）

・調査対応者
なし

・調査期日
平成29年1月25日（水）午前10時00分～午後11時50分

・墨田区の概要
人口：256,416人
世帯数：130,338世帯

・調査目的
本市において公共施設の活用の仕方を考察する。

・調査内容

【施設について】

◆クラウドファンディングの活用について

ふるさと納税によるクラウドファンディングで建築費の寄付を呼び掛けた。当館の会館には総事業費34億円が必要となっており、国と都からの交付金を除く5億円が区の負担。これまで寄付キャンペーンサイトなどを通じ、個人・法人向けに寄付を募り、約2億円以上を集めてきた。

税制改正もあり新規寄付の拡大としてスタート。23区としては初の試みでもあり、60日間で1,500万円の寄付を募った。今後も何らかのカタチでふるさと納税を使った寄付を募るとしており、目標で5,000万円を目指す予定。なお、今回のファンディングのリターンは全て、墨田区が実施しているブランド認証事業「すみだモダン」の認定を受けた商品。寄付金額に応じ、食料品や工芸品などを受け取ることができる。

◆基本理念

地域へ、世界へと北斎に関する情報を発信し、成長し続ける美術館

世界的な画家として評価の高い葛飾北斎は、宝暦10年（1760年）に本所割下水付近（現在の墨田区亀沢付近）で生まれ、90年の生涯のほとんどを墨田区内で過ごしなが、優れた作品を数多く残した。

墨田区では、この郷土の偉大な芸術家である北斎を区民の誇りとして永く顕彰するとともに、地域の産業や観光へも寄与する地域活性化の拠点として、「すみだ 北斎美術館」を開設。

この美術館では、北斎及び門人の作品を紹介するほか、北斎と「すみだ」との関わりなどについて皆様にわかりやすく伝えていくため、展覧会をはじめ様々な普及事業を行います。そして、これらの事業活動を通じて国内外に向けて情報を発信し、北斎と「すみだ」の魅力をより一層高めていく。

◆設置目的

- 1、北斎顕彰を通じて地域に愛着を深める場
- 2、区民の生涯学習の場
- 3、地域活性化の拠点（観光、産業への寄与）
- 4、国内外に向けた情報発信と交流の場

◆活動内容

・研究活動

北斎及び門人の作品や、北斎と「すみだ」との関わりなどについての調査研究を行います。その調査研究をもとに北斎に関わるデータベースを作成し、美術館の活動全般に活用します。さらに、その研究成果は、シンポジウムの開催や出版活動を通じて広く発信するとともに、わかりやすく区民に伝えている。

・講師派遣

すみだ北斎美術館では、「すみだ」のまちと、そこで生まれ育った世界的に有名な浮世絵師・葛飾北斎と関わりを知っていただくため、区内小学校・中学校などを対象とした出前授業を行っている。

◆開館情報

・開館時間

9：30～17：30（入館は閉館の30分前まで）

※2016年11月22日オープン

・休館日

毎週月曜日（月曜が祝日または振替休日の場合はその翌平日）、年末年始（2016年12月29日～2017年1月1日）

※上記以外にも臨時休館する場合有。

・観覧料金

常設展

一般 400円（団体320円）

高校生、大学生、専門学校生、65歳以上 300円（団体240円）

◆建築について

・設計者

妹島 和世

・設計コンセプト

訪れる人が気軽に立ち寄ることができる、公園や地域と一体となった美術館です。大きな1棟ではなく、スリットによりゆるやかに分割された外観とすることで、周辺の下町市街地のスケールとの調和を図っている。

建物全体をゆるやかに分割するスリットは、地上階部分ではアプローチの空間となっており、外部通路で結ばれている。建物全体に「裏」をつくらず、周辺地域のどこからでもアクセスすることができる。

浮世絵作品の保存展示を考慮し、建物全体として閉じながらも、スリット部分からは館内の様子が伺え、地域の人々にとってすみだ北斎美術館が身近に感じられるものとなる。また、館内からも公園や周辺地域を眺めることができ、最上階からは東京スカイツリー®といった墨田の特色を眺めることができる。

建物外壁は、淡い鏡面のアルミパネルを使用している。建物外壁にやわらかく下町の風景が映り込み、周辺地域の風景に溶け込む。また、ゆるやかに変化するボリュームは風景の映り込みをゆるやかに変化させ、見る角度によって表情の変化する外観となる。

・建築概要

すみだ北斎美術館は、自館所蔵作品だけでなく、国内外から作品を借入れ、多様な企画展示を行うために、脆弱な浮世絵作品の保存展示に適した機能・設備を備えている。

また、文化庁が定める「文化財公開施設の計画に関する指針」に沿い、国宝や重要文化財といった国指定文化財を展示可能な美術館としている。

【呉市での展開の可能性】

何よりもまず世界的に活躍する妹島和世さんの設計した、他ではない特徴的な外観が目目を引く美術館である。全体は銀色のアルミパネルに覆われ、くさび形のスリットを入れることで周囲の小さなビルに合わせてボリューム感を軽減し、複数の塊に分節している建物ほとにもかくにも、存在感がある。そして1階はいずれもガラス張りのエントランスホール、講座室、図書室など、4つの棟に分割されており、それらはどの方角からも出入りできる十字の外部通路でつながっており、全体としてはひとつの建物だが、まちの路地を歩くような空間体験を味わう事ができる。

クラウドファンディングを活用した公共施設の建築について、本市でも活用すべき内容と感じた。理由としては、寄付金の使い道を形としてはっきりと示しているところにある。現在、多くの自治体で返礼品を競うようになってきた。地域の特産を知ってもらうことは大切であるが、その返礼品を目的に寄付を受けることは、本

来の趣旨と少しずれが生じるのではないだろうか。その自治体を応援したい、そういった気持ちを受け取るには、使い道、この度だと美術館の建設といったことをはっきりと示し、「この地域のためにこういった事をするので、全国の皆様応援をお願いします」といったメッセージが必要ではないだろうか。寄付者にとっても自分の寄付がどのように使われ、どのように地域に役立ったか、共有するほうがより丁寧でもある。建築といったものでなくても、既に既存の博物館がある呉市においては、修繕であったり、企画展であったり、目的を様々なところにおくことができる。全国の呉市を応援したい人と一緒になって作り上げた一体感を使用目的の明確化で少しでも可能ではないだろうか、それによって、寄付者の満足度が少しでもあがるのではないだろうか、そう考える。